

千葉市指定文化財候補 加曽利貝塚 112 号住居出土遺物

1 種別

有形文化財（考古資料）

2 員数

遺構一括出土資料 1 式 （報告資料 165 点）未報告資料確認中

内訳（異形台付土器：3 点（一对）・土偶 2 点・石棒 3 点・丸玉 2 点・砥石 7 点・軽石製品 4 点・磨製石斧 1 点・剥片石器 2 点（石鏃・石錐）・敲石類 2 点・石皿・台石 3 点・土器（浅鉢 4 点・深鉢 3 点・小破片 120 点）土器片円盤 7 点・土器片錘 2 点）

詳細は別紙 指定候補資料一覧のとおり

3 所有者

千葉市

4 所在地

千葉市若葉区桜木 8 丁目

加曽利貝塚博物館内・埋蔵文化財調査センター収蔵庫

5 適用基準

各時代の遺物で、本市の歴史上重要と認められるもの

6 時代

縄文時代後期

7 説明

昭和 48（1973）年の発掘調査において検出された 112 号住居跡から、一括して出土した祭祀遺物であり、加曽利貝塚を代表する資料である。

・加曽利貝塚 112 号住居跡は、昭和 57（1982）年に「特殊遺構」として報告されている（後藤他 1982）。東西約 16m×南北約 19mをはかる大型の遺構で、同遺跡内で確認されていた他の竪穴住居と比しても隔絶した大きさを有し、床面上から多くの祭祀遺物が出土した。

・こうした事例は、古くは埼玉県真福寺貝塚での報告があげられるが、本遺構が報告された昭和 57（1982）年以降、同様の遺構の存在が全国で報告されるようになっており、研究史上、特殊な遺構としての縄文時代大型住居が広く認識されると契機になった調査事例の一つと捉えられる。

・検出された覆土は薄く、床面直上から祭祀遺物が出土した状況が報告されている。建物使用時もしくは廃棄直後のものとみなせる。

・本遺構は出土遺物ともに当該地域における縄文時代後・晩期における社会の変化、複雑化を示す、大型住居の代表的な例として引用されてきた（堀越 1997・阿部 2001・高橋 2001・2014・吉野 2007・西村 2015）。

- ・代表的な出土遺物として、2点1対の異形台付土器（資料4－2－1～3）。
- ・注目される遺物としては、床面上から軸方向をそろえて並ぶ形で出土した2点の石棒（資料4－1－22・23）。
- ・石棒の周囲から集中して出土したものとみられる砥石（資料4－3－27～33）。昭和48(1973)年の報告では7点。
- ・覆土中から多数が確認された土器片円板（資料4－2－15～21）。昭和48(1973)年の報告に159点出土の記載あり。
- ・ヒスイ製の丸玉（資料4－2－25～26）。

・千葉市を代表する考古学的な調査成果であり、出土状況が明らかな一対の異形台付土器と、一括して出土した遺物は、それを遺した縄文時代後期の社会や、縄文人の精神世界を垣間見ることのできる、非常に重要な文化財である。

【参考文献】

<報告>

後藤和民・庄司克・飯塚博和 1982 「加曽利貝塚東斜面発掘調査概報」『貝塚博物館紀要』第8号（昭和48年）

千葉市教育委員会 2017 『史跡加曽利貝塚総括報告書』千葉市教育委員会

【研究論文】

<大型住居について>

阿部芳郎 2001 「縄文時代後晩期における大形竪穴建物址の機能と遺跡群」『貝塚博物館紀要』第28号

高橋龍三郎 2001 「縄文後晩期社会の複合化と階層化過程をどう捉えるかー居住構造と墓制よりみた千葉県遺跡例の分析」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』4

高橋龍三郎 2014 『縄文文化研究の最前線』

<異形台付土器・遺物出土状況について>

菅谷通保 1985 「縄文時代特殊住居論批判-「大型住居」研究」の展開のために-」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』16

堀越正行 1997 「異形台付土器と土偶の背景」『土偶研究の地平「土偶とその情報」研究論集（1）』 勉誠社

蜂屋孝之 2013 「異形台付土器の検討」『縄文時代異形土器集成図譜』國學院大學文学部考古学研究室

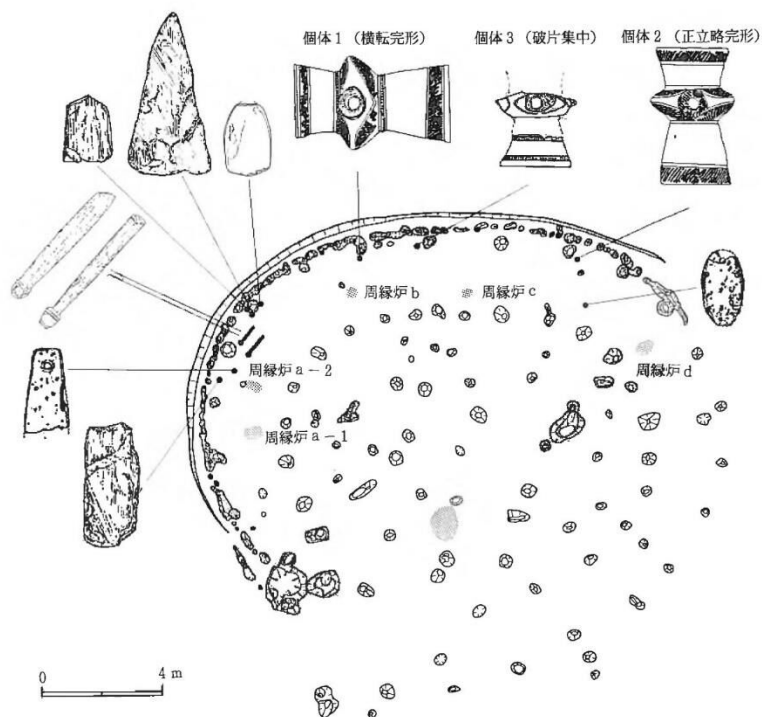
中村耕作編 2013 『縄文時代異形土器集成図譜 I』國學院大學文学部考古学研究室

中村耕作 2021 「注口土器・香炉形土器の異形化・顔身体化と社会背景」『季刊考古学』155

西村広経 2015 「東関東における縄文時代後・晩期の竪穴住居儀礼」『東京大学考古学研究室研究紀要』29

西村広経 2020 「広域分布する異形土器」『東京大学考古学研究室研究紀要』33

吉野健一 2007 「房総半島における縄文時代後・晩期の大型住居」『縄文時代の社会考古学』



阿部芳郎 2001 「縄文時代後晩期における大形竪穴建物址の機能と遺跡群」『貝塚博物館紀要』第 28 号

